

(公財)県民ボランティア振興基金支援事業

# かぎしっぽ相談会学校編 報告書

～県内6ヶ所を巡って見えた需要～



NPO 法人 発達障がいお悩み預かり所 かぎしっぽ



## かぎしっぽ相談会学校編 報告書

### ●はじめに

どこに何が足りないかの参考にってもらうために県内 6ヶ所を回って見えた地域別の良さや課題などについてまとめました。

学校関係者のそのままの声を書くため県や市、教育委員会や文部科学省についての意見も出ているのですが、現場の要望として今後建設的に議論していく材料として捉えていただけると嬉しいです。様々な意見を頂けますと幸いです。

NPO 法人 発達障がいお悩み預かり所 かぎしっぽ  
理事長 高以良 鴻

### ●当法人の説明

発達障がいは「今」助けが必要であるにも関わらず、病院での診断は「1年」待ちになっているという現状がある。当法人は医療福祉に携わる発達障がい当事者家族等で活動しており、発達障がいの子どもたちを支える保護者や学校関係者が気軽に相談できる場を作るために活動している。市や県からの補助金も受けて事業を行なっている。令和4年10月には発達障害者支援センター「しおさい」で講演し、学校関係者や県民に配信した。令和4年3月12日に長崎新聞に掲載もされた。



長崎新聞の記事

### ●事業の概要と目的

当法人の活動は長崎市内が主であるため、より広く県下全体の学校関係者の相談に乗って声を拾い、行政や教育委員会などに長崎県内の地域差や特有の事情を届けようという思いからこの事業を始めた。この声を元に病院や福祉施設などとも連携を取って発達障がいの子どもたちへのサポートがより良くなっていくことを目的としている。

【開催日と参加人数】相談会を開催し、地域の施設の視察も行なった。

開催日	場所	スタッフの人数	参加者数
令和4年9月24日	長崎	4人	7人
令和4年10月29日	島原	4人	8人
令和5年1月14日	西海	4人	7人
令和5年2月11日	対馬	3人	3人

令和5年2月18日	諫早	4人	2人
令和5年3月11日	五島	2人	4人

いずれも土曜日の13~16時 参加者合計 31人

### 【参加して下さった方々の業種】

小中高の教諭、特別支援学校・特別支援学級担当の教諭、学童の指導員、学校支援員、スクールソーシャルワーカー、特別支援コーディネーター、産業カウンセラー、発達障がいに関わる整体師、理学療法士、社会福祉法人、療育機関職員 など

### ●それぞれの会場で出た主な話題

#### ①長崎 主な話題

- ・学習指導要領は先生たちを忙しくする主要因だが、多様性のある社会と言われる現在では画一的な教育を見直す必要があるのではないか。
- ・学校で困り感があっても家では困っていない子、逆の子もいるなど状況で障がいや健全か変わる。それほど人間関係や環境が違くと子どもたちは違うことを感じているので一概に発達障がいと言うのはどうなのだろうか。
- ・クスリは大きく影響するので慎重に考えていきたいが、知識がない。
- ・ケース会議に学童の指導員などを呼んでほしい。それにより多職種で相談していきたい。

#### [学童の指導員からの発言]

- ・学校で子どもたちの自己決定支援を大切にしたい。親が出て行くだけでなく、先生と子どもとの関係を作ることが大事だと思う。



教員の他、学童の指導員や事業所運営者など

#### ②島原 主な話題



整体師によるトレーニング体験

- ・発達障がいの子の困り感を減らすビジョントレーニングや糖分などの栄養指導で本人の過ごしやすさを高める方法がある。[発達障がいに関わる整体師からの発言]
- ・逃げ出した時に探すべきかの議論。追いかけないと責任問題や本人の自己肯定感低下につながりかねないが、追いかけることで本人をまた追い詰めた

り、再び逃げ出すことを強化することになるのではないかという意見があった。たしかに両面あるので本人や学校の先生の個性やその関係性を元に個別に話し合う必要がありそうだという結論になった。

・個別支援計画が形骸化して、書類を完成させることに追われて学校の負担になっている。子どもたちを見る時間が逆に減ってしまっているので記録すべき情報を選んで引き継ぎやすくするシステムができてほしい。

・医療やクスの是非。果たして医療につながって幸せなのだろうか。親御さんに言うならどのタイミングで声かけしたらいいだろうか。

・不登校について問題視されているが、学校のベースは楽しさを引き出すことなので子どものせいにせず学校として議論して考えていかなければならない。

・フリーランスの言語聴覚士としてフットワーク軽く学校や施設に関わることができている。学校側としても訪問頻度が上がって喜ばれているのでこのやり方を広げていけば医療者も学校もどちらにとってもプラスになりそう。

#### 【視察：ACT しまばら】

児童発達支援・放課後等デイサービス・親子療育・個別療育・医療的ケア児支援・保育所等訪問支援・居宅訪問型児発・計画相談支援・障がい児相談支援 など様々な役割を果たしている。島原は施設が少なかったため少しずつ需要を満たす活動をしていくうちにこんなに増えたとのこと。

施設長さんは作業療法士でエビデンスに基づく支援をしていて、楽しく学べる環境を整えている。

島原の子がつながる病院はこども医療福祉センターと茂里町ハートセンターが主で遠いため通いにくい。



センター長との写真

#### 【島原から主に紹介される病院】



#### 【視察：松本鍼灸整骨院】

実際の発達障がいの子への施術を見学・体験し、現状を伺った。最近身体的なバランスの悪さやスマホによる目の動きが落ちているため発達障がいに限らず子どもで需要が増えてい

るとのこと。間食を干し芋や栗などに変えることで血糖値の急変を抑えて本人が過ごしやすくなる工夫も伺った。

### ③西海 主な話題

・小中高の分断が大きく引き継ぎがうまくいかないケースが多い。

・子どもが子どもを助ける居場所が校内でできており、口コミで広がっている。ステップアップ教室があつてクッションになっている。など、学校独自の工夫も見られる。

・通級指導教室がある高校がまだ少なく県内に6校しかない。(報告書の中の【通級指導教室について】でより詳しく述べる)

- ・不登校の子どもとその家族への関わり方に悩んでいる。
- ・同じことをしているのに学校支援員の福利厚生が安すぎる。
- ・保育所等訪問支援(療育機関が保育園に支援すること)というサポートがあることが広まって連携が深まってほしい。[療育機関職員からの発言]



制度に詳しい方が多かった会

### ④対馬 主な話題

・高校の支援に関わる学校は虹の原特別支援学校の対馬分教室と、豊玉高校の2校だけであり、中心街から1時間半かかってしまい遠すぎて、サポートが必要にも関わらず近隣の学校に行かざるをえない子が多い。送迎がなく保護者の負担になってしまうのでスクールバスを作るなどしないと通えない。

- ・毎年1校廃校するため物理的不登校に陥りやすい。
- ・生徒と先生が少ないためサッカーなどはチームが組めず、部活はバスケ、テニス、吹奏楽など限られてしまう。
- ・農業や漁業の家庭が多いから就職先不足で若い子たちが帰ってこない。逆にマンパワーが足りないから生徒の少しの助けが喜ばれるので学校外の関係人口を増やすことが大切だと思う。



市の職員の参加も

## ⑤諫早 主な話題

・高等部単独の支援学校は福岡に行かないといけ  
ない時代に先進的に設立された希望が丘高  
校。しかしながら、手帳取得がないと入学でき  
ないため"支援学級の東大"とも言われてしま  
う現状。希望丘から他の学校に先生を派遣して  
教えるほどの知見があるのでもっと受け入れ  
やすくしてほしい。

・議員の力でスクールバスができたこともあり、  
政治に訴えてもっと子どもの分野に予算を割くようにして欲しい。

・就労継続支援 B 型の子が「10 年で給料が 10 円上がった！」と喜ぶのを見て複雑な気持  
ちになった。制度を考えると給料が全てではないが評価されないと感じてしまう。A 型は数  
が少なく需要に追いついていないので増やしてほしい。

・昔は要らなかったが、校外に行くのに校外学習届けの許可が必要になり、社会が学びの場  
と認識されなくなった。家と学校以外の第 3 の居場所を作りにくいことにつながっている  
のではないか。

・小中高就職のつながりができてなくて、20 年前にやり残してできた分断を福祉でどうに  
かつなごうとしていて対応しきれていないという感じ。



退職されたからこそ話

## ⑥五島 主な話題

・グレーゾーン（発達障がい診断はつかないが困  
り感がある子どもたち）は施設としても金銭的にサ  
ポートしづらい。具体的には、本体加算(6,000 円)に  
加えて発達障がいの診断があると個別サポート加算  
(1,000 円)があるが、グレーゾーンだと同じサポー  
トでも加算にならない。

・待遇をかなり良くしてもいるにも関わらず支援員のな  
り手がない。(前述の西海とは違い、高待遇であるも同じく人数不足)。学校が支援員を軽視  
している側面があり、教員同士で共有していることを共有してもらえない時がある。

・病院は健診→五島中央病院小児科→保健所→こども医療福祉センターという流れで進む  
場合が多くこども医療福祉センターは船+バスも必要になり保護者にとってハードルが高  
い。

・支援学級の知的クラスと情緒クラスを一緒にしているところもある。知的クラスでは知的  
障がいやダウン症など発達の遅れに合わせて下の学年の内容を学び、情緒では ADHD や自  
閉症など個別対応を必要とするという違いがある。分けるべきかは議論もあるが教員が足



社会福祉法人の方の参加も

りなくて選択肢がない状況。

・里子制度も活用しており、子どもたちが過ごしやすい環境を提供する取り組みを行なっている。

・就職先不足は深刻なので、高校や大学から長崎市や県外に行く子も多い。

#### 【視察：五島子ども若者サポートステーション】

主な業務は職に関する相談ですが、フードバンクや学習支援を始めたところ驚くほど学習支援や学校外の居場所としての需要が多いとのことでした。就職しながら転職を探す人も多く日曜も営業するようになったこと。

遊び場や相談の場、仕事が少なく、8050問題や高校の不登校で悩んでいる家庭も多い。

グレーゾーンの子どもたちの相談が多い。

五島中央病院からサポステにもつないでもらうような連携体制が取れている。

適当な田舎で、移住が県内2番目に多く定着率が高いことは五島の強み。

#### 【共通してよく出た話題】

・小中高大就職の縦のつながりが切れることでサポートが急になくなることが多い。

・グレーゾーンの子どもたちが病院や福祉にもつながりにくい。

・支援員や学童の指導員と学校にどうしても距離感があり、業務内容は近くても学校に関与しにくい雰囲気の学校が多い。

・学校内で他の先生に本音や悩みを話しづらく、学校としても自校の困りごとを周りに知られることに抵抗を感じてしまうことが多い。守秘義務や悪いニュースとして報道に取り上げられてしまうことを恐れていることもあると思うが、かぎしっぽのような気軽に話せる場があってよかった。

・通級指導教室を作ってほしいという要望を出しているが13人集めきれず開設できない。(報告書の中の【通級指導教室について】でより詳しく述べる)

・この子に病名をつけてもらった方がいいのか、クスリを飲んだ方がいいのか、など迷っていて病院との関わり方に悩むことがある。

#### ●6ヶ所での相談会参加者感想抜粋

・異業種異年齢の方々とつながれてよかった。

・子供達のサポート計画が上手く伝わっていない事が課題。そのあり方に疑問を持たざるを得ません。

・小、中、高やその先へ向けて連携が必要。

・しょうがいや困り感を抱えている人に対してあらゆる角度からサポートしたいという思いをもっている方が、たくさんいることに驚き、嬉しかったです。

・自分たちで解決しなきゃ。退職してからしか言えないことが多い。

●学校編講演会

3/18(土)13時~16時

参加者 10人 小中大学の教員、当事者保護者、子ども関係の団体の代表、キャリアコンサルタント等の職種

・講演会の流れ

外部講師講演 30分、かぎしっぽ事業報告 30分、  
質疑応答&グループトーク 2時間

本来は1時間の予定だったグループトークが白熱し、1時間延長した。知的クラスと情緒クラスを分けることで勉強に対するサポートはしやすいが、合わせることで子どもたち同士の交流が深まるメリットがあり、特別支援学級の子どもたちが半分以上通常級に行ってはいけないという「4.27通知」の話やこども家庭庁の話などを参加者とともに深めた。



講師による教育現場の実際



理事長による事業報告

●本事業でわかった社会資源

学校関係者や県や市関係者と話す中で教育に関する施設や人的資源が見えてきたため数字上も地域差を感じた。無論、重要なものは数字だけではなくそこに関与する一人ひとりの学校関係者の思いだが、参考資料として掲載する。

【通級指導教室について】

・小中の通級数 令和5年3月現在

※ 公立小学校 306校と公立中学校 162校を合わせた 468校中

年度	通級数	そのうち巡回型
令和4年度	236	35
令和3年度	222	24
令和2年度	217	25
令和元年度	211	25

・市町村別の通級数 令和5年3月現在

長崎	佐世保	諫早	大村	平戸	松浦	東彼杵	川棚	波佐見	佐々
59	29	6	16	9	15	2	5	3	3

西海	雲仙	島原	南島原	五島	新上五島	対馬	壱岐	長与	時津
6	5	15	15	20	3	3	5	10	7



・公立高校 54 校中、高校の通級は五島南、中五島、島原翔南、鳴滝、佐世保中央、諫早東の 6 校

<通級での参加者の意見>

- ・小中学校では利用者 13 人のカベがあり、10 人が必要と思っても人数を集めきれず通級ができないという学校も多い。少子化によりますます 13 人が集めにくくなっている。
- ・中高でサポートがなくなる。中学はまだ多いがそれでも小学校より少なく、高校になると 6 校しかないため年を経るとサポートが手薄になる。

【適応指導教室】 令和 5 年 3 月現在

県 1 教室 他、各市町 14 教室（長崎市 佐世保 平戸 松浦 諫早 大村[3] 西海[2] 五島 対馬 長与） ※[ ]内は教室数、[ ]がない場所は 1 教室

- ・通級と違って親の送迎が必要になるためハードルが高くなってしまう。

【県のスクールソーシャルワーカー】 令和 5 年 3 月現在

諫早、大村、平戸、松浦、東彼杵、川棚、波佐見、小値賀、佐々、西海、雲仙、島原、南島原、五島、新上五島、対馬、壱岐、長与[2]、時津

長崎市、佐世保、大村、西海、対馬、長与などは市の独自採用を行っており、佐世保は 7 人従事している。県と市に従事しているスクールソーシャルワーカーは合計約 50 人で、1 人で 10 校以上を受け持つこともある。

### ●今後の展望

この事業で学校関係者の相談の場が少ないことを実感し、足を運んでくれた学校関係者たちでも仲が深まるまで本音が言いづらいことを感じた。島原市教育委員会や西海市教育委員会には後援をいただき、他地域も教育委員会を通じて各市町村の小中学校へチラシを送付したものの初めて聞く団体のところへ行くハードルは高いと感じた。この成果を広めていき、より多くの学校関係者の声を拾っていきたい。また来てほしいという要望が多いため今回の参加者をキーパーソンとして継続的に関わっていきたい。

今後、佐世保など行けなかった地域を訪問することを予定している。今年はこの活動の必要性について佐世保市教育委員会の理解を得ることができず自分たちの力不足を感じたため、今回の収穫を元に活動を継続していくことで、このような会を通して学校関係者同士のつながりを深める手伝いや、地域の施設とも連携を深めることに貢献していききたい。

●さいごに

この事業は県民ボランティア振興基金の助成金により運営しています。日頃から相談にも乗っていただいております。この場を借りて御礼申し上げます。

また、この報告書で関心を持ってくださった方は保護者や学校関係者に限らず連絡していただくと幸いです。まだまだ未熟なところが多いのですが、みなさまの助けを得ながら子どもたちにとってより良い社会になるよう貢献していきます。

■ 連絡先

NPO 法人 発達障がいお悩み預かり所 かぎしっぽ

[hattatsu.kagishippo@gmail.com](mailto:hattatsu.kagishippo@gmail.com)

Facebook 最も頻繁に更新しています

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100075519263874>



Instagram

<https://instagram.com/hattatsu.kagishippo?igshid=YmMyMTA2M2Y=>



ホームページ

<https://kagishippo.page>



本資料の PDF ダウンロードはこちら

[https://drive.google.com/drive/folders/1acmTA52eDnB5L0TA2k\\_Z49duJ8ln4P6c?usp=share\\_link](https://drive.google.com/drive/folders/1acmTA52eDnB5L0TA2k_Z49duJ8ln4P6c?usp=share_link)



NPO 法人 発達障がいお悩み預かり所 かぎしっぽ

かぎしっぽ相談会学校編報告書

発行日

令和 5 年 3 月

編集・発行

NPO法人 発達障がいお悩み預かり所 かぎしっぽ

理事長 高以良 鴻

